

# 総合医学

年次	学期	学則科目責任者
4年次	通年	坂巻 達夫 (内科学)

学修目標 (GIO) と 単位数	単位数：12単位 歯科診療において全人的医療を遂行する上で必要な医学的知識を理解する。
評価方法 (EV)	平常試験（多肢選択問題）によって評価点（100%）とする。 総合医学に含まれる各科目は追試験は行わないが、原則として再試験は行わない。 成績評価は含まれる各科目の授業時間に応じた重み付けを行い、総合医学全体として評価点を出す。 60点以上を合格とする。

## 外科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	通年	牧山 康秀 (頭頸部外科学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 学修目標(GIO)：歯科診療を行う上で必要となる外科学の知識を習得する。
担当教員	※宋 圭男、※谷 眞弓、※畠中 康晴、※前田 剛、※櫻井 健一、※藤田 英樹、※松浦 大輔、 野本 たかと、丹羽 秀夫、遠藤 眞美、廣田 均
教科書	標準外科学 加藤ら 医学書院 標準皮膚科学 富田ら 医学書院 よくわかる摂食・嚥下のしくみ 山田好秋 医歯薬出版
評価方法 (EV)	学期末の授業時間内に行う平常試験(100%)によって評価点とする。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/20 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系1 外科学概論 近代外科学の発展 基本的外科手技	<p>【授業の一般目標】 広義の外科学の一分野としての歯科を理解する。 近代外科学の進歩を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 外科学が発展してきた要因を説明できる。 2. 外科手術に用いる器械・器具を理解し、切開縫合・止血法の基本を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：歯科学の歴史 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 17 一般教養的事項 ア 医学史、歯科医学史</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 オ 使用器材、取扱法 a 基本的器材 サ 創傷の処置 b 止血 c 縫合</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-4) 小手術の基本手技 *⑤縫合と止血に必要な器具の用法を説明できる。</p>	谷 眞弓
2017/09/27 (水) 1時限	外科系2 消毒法・滅菌法・	<p>【授業の一般目標】 無菌法・滅菌法を通じ、手術における感染防止の重要性を理解する。</p>	廣田 均

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
09:00～10:30	清潔操作・損傷・炎症	<p>損傷・炎症の分類、病態・治療法について基本的概念を理解する。 創傷治癒のメカニズムを理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 各種消毒法を説明できる 2. 滅菌法を説明できる 3. 損傷、炎症を説明できる 4. 創傷治癒を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：外科総論の該当部分を通読。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ク 消毒・滅菌と感染対策 a 消毒・滅菌法</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 c 損傷 d 炎症 歯科医学総論 総論X 治療 5 手術基本手技 ア 消毒と滅菌 ケ 創傷の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-2) 修復と再生 *①修復と再生について説明できる。 *③創傷治癒に関与する細胞とその過程を説明できる。 C-4-4) 炎症 *①炎症の定義を説明できる。【発症機序を含む。】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-4) 小手術の基本手技 *⑧器具の滅菌、消毒について説明できる。 *⑥手指と術野の消毒について説明できる。</p>	廣田 均
2017/10/11 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系3 免疫	<p>【授業の一般目標】 免疫に関する臓器・細胞について説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 免疫に関する臓器・細胞について説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：免疫について 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 f 免疫（自然免疫、獲得免疫）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論III 人体の正常構造と機能 3 免疫 ア 免疫系臓器、免疫担当細胞</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-2) 免疫 *①自然免疫と獲得免疫について説明できる。 *②細胞性免疫と体液性免疫について説明できる。【抗体の種類と特徴を含む。】 *③免疫担当細胞の種類と機能を説明できる。 *④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。 *⑤アレルギーの分類を説明できる。【発症機序を含む。】 *⑥免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。</p>	畠中 康晴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/10/11 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系3 免疫		畠中 康晴
2017/10/18 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系4 皮膚疾患 総論・各論1	<p>【授業の一般目標】 皮膚の解剖を説明できる。 発疹学を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的な発疹疾患を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：皮膚の解剖 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 c 組織 (上皮組織、支持組織 (血液を含む)、筋組織、神経組織)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 イ 皮膚、外表</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (1) 組織 (上皮組織、結合組織、筋組織) 【神経組織の構造と機能はC-2-3) - (5) 神経系の項を参照】 *①上皮を形態のおよび機能的に分類できる。 *②皮膚と粘膜の基本構造と機能を説明できる。 *③腺を分泌物の性状、形態および分泌機構に基づいて分類できる。</p>	藤田 英樹
2017/10/25 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系5 ショック 救急蘇生法	<p>【授業の一般目標】 ショックを説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. ショックの定義と症状、分類を説明できる。 2. ショックに対し救急蘇生法ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：血圧、循環、呼吸について。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 13 初期救急 イ 救急処置 b 救急処置を要する症状 (失神、意識障害、ショック、けいれん、呼吸困難、胸痛、嘔吐、皮膚症状、誤飲と誤嚥)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 13 初期救急 イ 救急処置 a 一次救命処置&lt;BLS&gt;、気道確保、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈路確保、酸素療法、基本的救急薬品、止血法、輸液療法、輸血 ア 救急患者の診察 a 全身的偶発症の原因推定 c 意識障害の評価 d 病態・疾患の鑑別 e 重要臓器の機能状態の把握</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *⑦ショックの成因と種類を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-5) 救急処置 *④気道確保と呼吸吹き込みによる人工呼吸を実施できる。 *⑤胸骨圧迫と自動的体外式除細動器 (AED) の操作を実施できる。</p>	前田 剛

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/01 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系6 腫瘍, 抗腫瘍剤	<p>【授業の一般目標】 腫瘍について基本的概念を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 良性・悪性の鑑別点を説明できる 2. 抗腫瘍剤の作用機序・使用法・副作用を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：腫瘍の定義 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 ア 疾病の概念 g 腫瘍</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 ア 腫瘍の概念 イ 腫瘍発生の病因 ウ 腫瘍の疫学 エ 腫瘍の発育様式 ケ 腫瘍と宿主の関係 総論X 治療 8 放射線治療 ア 放射線治療の生物学的・物理学的基礎 9 薬物療法 セ 抗腫瘍薬</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *①腫瘍の定義を説明できる。 *②腫瘍の病因を説明できる。 *③異形成を説明できる。 *④腫瘍の異型性と組織学的分化度を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4)-(5) 嚢胞、腫瘍および類似疾患 *⑪前癌状態の種類と特徴を列挙できる。 *⑫口腔癌の特徴、予防、症状および治療法を説明できる。</p>	丹羽 秀夫
2017/11/08 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系7 気管・食道科学 総論	<p>【授業の一般目標】 気管食道の病態、嚥下とその病態について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 誤飲、誤嚥を説明できる。 2. 気管・食道の異物について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：気管・食道の解剖 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論III 人体の正常構造と機能 2 器官系 イ 消化器系 総論VII 主要症候 1 全身的症候 エ 消化器 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 18 歯科における全身偶発症</p>	宋 圭男

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/08 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系7 気管・食道科学 総論	キ 誤飲と誤嚥  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (6) 消化器系 *①消化管(咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の基本構造と機能を説明できる。 【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】	宋 圭男
2017/11/15 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系8 甲状腺・リンパ腺・ 乳腺	【授業の一般目標】 歯科学領域で遭遇頻度の高い頭頸部疾患を理解する。  【行動目標(SBOs)】 1. 代表的な甲状腺疾患を説明できる。 2. 代表的な乳腺疾患を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目: 甲状腺、乳腺の解剖 準備学修時間: 30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論III 人体の正常構造と機能 2 器官系 ケ 内分泌系  【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 7 腫瘍 イ 腫瘍発生の病因 ウ 腫瘍の疫学 エ 腫瘍の発育様式 オ 腫瘍の組織学的構造 キ 良性腫瘍、悪性腫瘍  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (8) 内分泌系 *①各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *②腫瘍の病因を説明できる。 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。	櫻井 健一
2017/11/22 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系9 急性腹症	【授業の一般目標】 急性腹症とは何かを説明できる。  【行動目標(SBOs)】 1. 代表的な急性腹症を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目: 腹腔の解剖 準備学修時間: 30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 1 3 初期救急 ア 救急患者の診察 e 重要臓器の機能状態の把握  【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 1 3 初期救急 イ 救急処置 b 救急処置を要する症状 (失神、意識障害、ショック、けいれん、呼吸困難、胸痛、嘔吐、皮膚症状、誤飲と誤嚥) 歯科医学総論 総論VII 主要症候 1 全身的症候 エ 消化器	畠中 康晴

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/22 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系9 急性腹症	<p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。 *③主要な身体診察を説明できる。</p>	梶中 康晴
2017/11/29 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系10 食道疾患	<p>【授業の一般目標】 食道の臨床解剖と疾患を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的な食道疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：食道の解剖 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 エ 消化器</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 イ 消化器系</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (6) 消化器系 *①消化管 (咽頭、食道、胃、小腸、大腸) の基本構造と機能を説明できる。 【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。</p>	宋 圭男
2017/12/06 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系11 消化管・肝・胆・膵	<p>【授業の一般目標】 消化性潰瘍の概念を理解する。 消化性潰瘍の診断と治療法を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 胃癌の疫学と概念を理解し診断・治療法を説明できる。 2. 大腸癌の疫学と概念を理解し診断・治療法を説明できる。 3. 大腸の炎症性疾患を説明できる。 4. 代表的な肛門疾患の診断治療について説明できる。 5. 代表的な肝臓・胆嚢・膵臓疾患を理解し、診断・治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：消化管の解剖 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 エ 消化器</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (6) 消化器系 *①消化管 (咽頭、食道、胃、小腸、大腸) の基本構造と機能を説明できる。 【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。</p>	宋 圭男

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/13 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系12 皮膚疾患 各論2	<p>【授業の一般目標】 口腔に見られる皮膚粘膜疾患が説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 天疱瘡を説明できる 2. 単純ヘルペスを説明できる。 3. 口腔カンジダ症を説明できる。 4. 扁平苔癬を説明できる。 5. 口腔アレルギー症候群を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：口腔粘膜の解剖 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 エ 口腔粘膜</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 イ 皮膚・外表 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 6 口腔粘膜疾患 ア 単純疱疹 &lt;疱疹性口内炎&gt; オ 天疱瘡 カ 類天疱瘡 ケ 粘膜・皮膚・眼症候群 &lt;Stevens-Johnson 症候群&gt; コ 中毒性表皮壊死剥離症 &lt;TEN&gt; チ 口腔扁平苔癬 ツ 口腔カンジダ症&lt;鷲口瘡&gt;</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (4) 口腔粘膜疾患 *①口腔粘膜疾患の種類と特徴を説明できる。 *②水疱、紅斑、びらん、潰瘍、白斑、色素沈着等を主徴とする主な粘膜疾患を概説できる。</p>	松浦 大輔
2017/12/20 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系13 摂食嚥下リハビリ テーション1	<p>【授業の一般目標】 摂食・嚥下機能を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 1. 摂食・嚥下機能の発達を説明できる。 2. 2. 嚥下の機序について説明できる。 3. 3. 嚥下動作にかかわる解剖・生理を説明できる。 4. 4. 摂食・嚥下機能障害を合併する疾患を述べられる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：頭頸部の解剖 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 s 摂食・嚥下障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 カ 嚥下 総論Ⅴ 発生、成長、発達、加齢 5 口腔・顎の機能の発達 イ 嚥下 総論Ⅶ 主要症候 2 歯・口腔・顎・顔面の症候 ケ 口腔機能障害 a 開口・閉口障害、咀嚼障害、摂食・嚥下障害、発音・構音障害、味覚障害、呼吸障害、感覚障害、口腔乾燥 必修の基本的事項</p>	野本 たかと

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/20 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系13 摂食嚥下リハビリ テーション1	9 主要な症候 ウ 全身の疾患による主な口腔症状 k 脳血管疾患、神経筋疾患の摂食・嚥下障害  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *⑧嚥下の機序を説明できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (10) 口唇・口腔・顎顔面領域の機能障害 *②嚥下障害を概説できる。	野本 たかと
2018/01/10 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系14 摂食嚥下リハビリ テーション2	【授業の一般目標】 摂食・嚥下障害の診断ができるために診査法および検査法を理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 摂食・嚥下機能障害の診査法および検査法を説明できる。 2. 摂食・嚥下機能障害の診断を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：嚥下障害 準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 s 摂食・嚥下障害  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論IX 検査 1 口腔内検査・口腔機能検査 ソ 嚥下機能検査  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-3) 高齢者の歯科治療 *⑩摂食・嚥下障害の診察、検査、診断を説明できる。	野本 たかと
2018/01/17 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系15 摂食嚥下リハビリ テーション3	【授業の一般目標】 摂食・嚥下リハビリテーションができるよう訓練法を理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 間接訓練法と直接訓練法について説明できる。 2. 嚥下障害と誤嚥性肺炎について説明できる。 3. 嚥下障害と栄養について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：リハビリテーション 準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 へ 口腔機能のリハビリテーション a 機能の回復 <咀嚼機能、摂食・嚥下機能、構音機能>  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論X 治療 7 リハビリテーション イ 摂食・嚥下障害のリハビリテーション 歯科医学各論 各論VI 高齢者の歯科診療 16 摂食・嚥下障害 イ 摂食・嚥下障害の対応 a リハビリテーションの理念 b 間接訓練 c 直接訓練、段階的摂食訓練 d 食事指導、食事介助 e 歯科的アプローチ  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開	遠藤 眞美



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/17 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系15 摂食嚥下リハビリ テーション3	E-4-3) 高齢者の歯科治療 *①摂食・嚥下リハビリテーションを説明できる。	遠藤 眞美
2018/01/24 (水) 1時限 09:00～10:30	外科系16 平常試験	<p>【授業の一般目標】 客観問題を中心に出題する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 多肢選択問題に解答する</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 総合医学外科系 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	廣田 均 牧山 康秀

## 頭蓋・顔面・頭頸部外科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	通年	牧山 康秀 (頭頸部外科学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 歯科・口腔外科学と不可分な領域である耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学、機能修復・温存に必須の形成外科学、疼痛医学を学習する。
担当教員	丹羽 秀夫、※久保 英之、※嶋原 俊太郎、牧山 康秀、※副島 一孝、小見山 道、※前田 剛、※樫村 勉
教科書	標準耳鼻咽喉科学 鈴木ら 医学書院 口腔顔面痛の診断と治療ハンドブック 日本口腔顔面痛学会 医歯薬出版
評価方法 (EV)	平常試験により評価する。学習状況により減点することがある。積極的な授業参加(質疑応答)で評価することがある。予告のない試験を行うことがある。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/25 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋・顔面・頭頸部外科系1 頭部顔面外傷・総論	<p>【授業の一般目標】 頭部顔面外傷の総論を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 頭蓋顔面外傷に必要な解剖を説明できる 2. 頭蓋顔面外傷の特殊性、特徴を説明できる 3. 頭蓋顔面外傷の初期診断、初期治療を説明できる 4. 頭蓋顔面外傷の徴候と診断を説明できる 5. 頭蓋顔面外傷の治療を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭蓋顔面の解剖を説明できる。 外傷の総論が説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 8 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷 イ 骨折の様態</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 8 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷 ア 骨の亀裂・破折・脱臼 サ 損傷に対する治療</p> <p>【コアカリキュラム】 F 臨床実習 F-2 診察の基本 F-2-2) 頭頸部の診察 ①顔面の色調変化の診察ができる。 ②顔面の対称性の診察ができる。</p>	牧山 康秀
2017/10/02 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系2 耳鼻咽喉科学総論 解剖・生理・機能	<p>【授業の一般目標】 耳鼻咽喉科学が歯科医学においてどのような位置づけにあるのかを理解し、解剖、生理について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 耳鼻咽喉科領域の解剖を説明できる 2. 耳鼻咽喉科領域の生理を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 聴器、平衡器、鼻腔、副鼻腔、咽頭喉頭の解剖と生理が説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌</p>	丹羽 秀夫

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/10/02 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系2 耳鼻咽喉科学総論 解剖・生理・機能	尿管系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *①頭蓋骨の構成と構造を説明できる。 *③頭頸部の脈管系を説明できる。 *⑧嚥下の機序を説明できる。	丹羽 秀夫
2017/10/16 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系3 耳科学総論	【授業の一般目標】 耳の臨床解剖・機能を説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 聴器、平衡器の臨床解剖、生理を説明できる  【準備学修項目と準備学修時間】 聴器、平衡器の解剖生理を説明できる。 準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 ク 感覚器系  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (4) 感覚器系 *③視覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。	嶋原 俊太郎
2017/10/23 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系4 疼痛学総論	【授業の一般目標】 疼痛学の基礎を説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔・顎・顔面・頭部の痛覚伝導路を説明できる 2. 口腔・顎・顔面・頭部の筋支配を説明できる 3. 疼痛の定義、意義、機能を説明できる 4. 疼痛の分類を説明できる  【準備学修項目と準備学修時間】 口腔・顎・顔面・頭部の知覚と運動の解剖生理を説明できる。 準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 8 疼痛 エ 口腔・顔面領域の疼痛  【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 8 疼痛 ア 侵害受容性疼痛 イ 神経障害性疼痛 ウ 心因性疼痛 総論Ⅳ 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 3 口腔・顎・顔面・頭頸部の機能 ス 顔面皮膚の感覚  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (5) 神経系 *①脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。	小見山 道 牧山 康秀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/10/30 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系5 鼻科学各論 咽喉頭科学総論各論	<p>【授業の一般目標】 鼻科領域において歯科医学と関連の深い検査法・診断・治療を説明できる。 咽頭・喉頭の解剖・機能を説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 副鼻腔炎の病態、症状、診断、治療について説明できる。 2. 咽喉頭疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 鼻腔、副鼻腔の解剖と生理を説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 3 軟組織の炎症 カ 歯性上顎洞炎</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 エ 舌癌 ケ 上顎洞癌 コ 軟組織の肉腫</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (7) 呼吸器系 *①気道系 (鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支) の構造と機能を説明できる。</p>	丹羽 秀夫
2017/11/06 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系6 疼痛学各論1 口腔・顎領域の慢性疼痛1	<p>【授業の一般目標】 口腔・顎・顔面領域に発生する慢性疼痛疾患に対応できるようになるために、各種原因疾患の診査、診断治療方針に関する基本的知識を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 顎関節症の診査、診断、治療方針を説明できる 2. 舌痛症の診査、診断、治療方針を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 顎関節の解剖、生理、機能。 舌の神経支配、舌に疼痛を引き起こす系統疾患。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 1 病態 カ 顎関節症・口腔顔面痛</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 13 神経疾患 オ 舌痛症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (6) 顎関節疾患 *②顎関節疾患 (外傷、脱臼、炎症、顎関節症、顎関節強直症) の症状、診断法および治療法を概説できる。 E-2-4) - (8) 神経性疾患 *②口腔・顔面痛について概説できる。</p>	小見山 道 牧山 康秀 久保 英之
2017/11/13 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系7 疼痛学各論2 頭部・顔面領域の慢性疼痛	<p>【授業の一般目標】 慢性の頭痛・顔面痛について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 緊張型頭痛、片頭痛、群発頭痛が説明できる 2. 三叉神経痛、舌咽神経痛が説明できる 3. 非定型顔面痛、非定型歯痛が説明できる 4. 帯状疱疹後神経痛が説明できる 5. 複合性局所疼痛症候群が説明できる</p>	牧山 康秀 小見山 道 久保 英之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/13 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系7 疼痛学各論2 頭部・顔面領域の慢性疼痛	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 疼痛の基礎医学を説明できる。 疼痛の臨床的意味を説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 8 疼痛 エ 口腔・顔面領域の疼痛</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 13 神経疾患 ア 三叉神経痛 イ 舌咽神経痛 ウ 非定型顔面痛、非歯原性歯痛 エ 複合性局所疼痛症候群 &lt;complex regional pain syndrome&gt;</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 神経性疾患 *①三叉神経痛の原因、症状および治療法を説明できる。 *②口腔・顔面痛について概説できる。</p>	牧山 康秀 小見山 道 久保 英之
2017/11/20 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系8 形成外科総論・顎顔面領域の形成外科総論	<p>【授業の一般目標】 形成外科の理念・方法論を理解する。 顎顔面領域に関わる形成外科の疾患を説明できる。 顎顔面領域における歯科ならびに形成外科学的審美学を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 形成外科を定義できる 2. 形成外科の対象となる顎顔面領域の先天異常、外傷、組織欠損、再生医療について説明できる 3. 顎顔面領域における審美学を説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 皮膚の組織、創傷の治癒を説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論IV 歯・口腔・顎・顔面の正常構造と機能 1 頭頸部の構造 カ 顔面</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 1 先天異常と変形を主徴とする疾患 ア 口唇・口蓋裂 ウ 顔面裂 エ 口唇・頬部の異常 ク 先天異常と変形に対する治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面に症状をきたす先天性異常を説明できる。</p>	副島 一孝
2017/11/27 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外科系9 形成外科学各論1 口唇裂・口蓋裂	<p>【授業の一般目標】 口唇裂、口蓋裂を説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 口唇裂、口蓋裂を定義できる 2. 口唇裂、口蓋裂の分類、疫学、病態、合併症、解剖、治療計画、手術について説明できる。</p>	樫村 勉

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/27 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系9 形成外科学各論1 口唇裂・口蓋裂	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 顔面の発生学と臨床解剖を説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論V 発生、成長、発達、加齢 3 歯・口腔・顎・顔面の発生 イ 顎、口蓋</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論II 成長発育に関連した疾患・病態 1 歯・口腔・顎・顔面の発育を障害する先天異常 ア 口唇・口蓋裂 各論IV 顎・口腔領域の疾患 1 先天異常と変形を主徴とする疾患 ア 口唇・口蓋裂</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-3) 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生、成長・発育および加齢とその異常 *①口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の発生を概説できる。 *②一次口蓋と二次口蓋の発生を説明できる。 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (1) 先天異常および後天異常 *②口唇・口蓋裂の病態と治療方針を説明できる。</p>	榎村 勉
2017/12/04 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系10 疼痛学各論3 口腔・顎領域の慢性疼痛2	<p>【授業の一般目標】 歯に原因がないにも関わらず歯に疼痛を引き起こす非歯原性歯痛の適切な診査、診断、治療方針の決定ができるようになるために、各種原因疾患の特長を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 筋・筋膜痛による関連痛の特徴が説明できる 2. 神経障害性疼痛による歯痛の特長が説明できる。 3. 神経血管性頭痛による歯痛の特徴が説明できる。 4. その他の原因による非歯原性歯痛による歯痛の特徴が説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 疼痛学総論、疼痛学各論1、疼痛学各論2の内容。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 1 病態 カ 顎関節症・口腔顔面痛</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 神経性疾患 *②口腔・顔面痛について概説できる。</p>	小見山 道 牧山 康秀 久保 英之
2017/12/11 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系11 顎顔面領域の神経疾患	<p>【授業の一般目標】 顎顔面領域の神経支配を説明できる。 神経疾患による顎顔面領域の症状・病態・診断について説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 顔面けいれん、口腔ジスキネジーについて説明できる。 2. 顔面神経麻痺、Ramsay Hunt症候群について説明できる。 3. 三叉神経麻痺、舌神経麻痺、舌下神経麻痺について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭部、顔面、口腔、頸部の解剖、生理について説明できる。 けいれん、不随意運動、てんかんを定義できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p>	牧山 康秀

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/11 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系11 顎顔面領域の神経 疾患	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 ク 神経 (知覚障害と運動障害を含む)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 13 神経疾患 キ 舌神経麻痺 ク 顔面神経麻痺 ケ 軟口蓋麻痺 コ Ramsay-Hunt 症候群 &lt; Hunt 症候群 &gt; サ 顔面けいれん シ 三叉神経麻痺 ス 舌下神経麻痺 セ 神経疾患の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (8) 神経性疾患 *③顔面神経麻痺の原因、症状および治療法を説明できる。 *④三叉神経麻痺 (感覚麻痺、運動麻痺) の原因、症状および治療法を説明できる。 F 臨床実習 F-2 診察の基本 F-2-2) 頭頸部の診察 ②顔面の対称性の診察ができる。</p>	牧山 康秀
2017/12/18 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系12 耳科学各論 めまい・平衡機能	<p>【授業の一般目標】 平衡器官とその疾患について検査・診断・治療法を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. メニエール病、突発性難聴について説明できる。 2. 良性発作性頭位眩暈症、前庭神経炎について説明できる。 3. 聴力検査、他覚聴力検査について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 平衡器の解剖生理について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思 (欲) 不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 ク 神経 (知覚障害と運動障害を含む)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (4) 感覚器系 *③視覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。</p>	嶋原 俊太郎
2018/01/15 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系13 形成外科学各論2 顔面頭頸部の形成 再建外科	<p>【授業の一般目標】 顔面頭頸部形成再建術に必要な解剖・術式・合併症を説明できる。 顔面頭頸部領域で関わる形成外科的知識を説明できる。 再建外科に必要な皮膚移植 (組織移植) について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 自家組織移植による再建について説明できる。 2. 植皮術と皮弁について説明できる。 3. 顔面頭頸部再建術を説明できる 4. 口腔、中咽頭再建術を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 皮弁の作成と創の形成を説明できる。 準備学修時間：30分</p>	副島 一孝

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/15 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系13 形成外科学各論2 顔面頭頸部の形成 再建外科	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論X 治療 5 手術基本手技 ク 移植、再植</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 タ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療 a 外科療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (2) 外傷 ⑦軟組織損傷を分類し、それぞれの症状と処置法を説明できる。</p>	副島 一孝
2018/01/22 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系14 頭頸部腫瘍学	<p>【授業の一般目標】 唾液腺腫瘍、頸部郭清術について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 唾液腺の種類・解剖・機能を説明できる。 2. 唾液腺疾患の検査法、診断治療を説明できる。 3. 頸部郭清術の解剖、術式、合併症を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頸部の解剖について説明できる。 唾液腺の解剖と生理を説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有：ミニッツペーパー</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 タ 腫瘍・腫瘍類似疾患に対する治療 a 外科療法</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 エ 舌癌 ク 口底癌 コ 軟組織の肉腫 12 唾液腺疾患 タ 良性腫瘍 チ 悪性腫瘍 テ 唾液腺疾患の治療</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-5) 腫瘍 *⑤良性腫瘍と悪性腫瘍の異同を説明できる。 *⑥局所における腫瘍の増殖、浸潤および転移を説明できる。</p>	丹羽 秀夫
2018/01/29 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系15 頭部顔面外傷各論	<p>【授業の一般目標】 頭蓋顔面外傷の各病型の診断治療を説明できる</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 頭蓋骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。 2. 眼科骨折の分類・診断・治療を説明できる。 3. 頬骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。 4. 上顎Le Fort 骨折の分類・診断・治療を説明できる。 5. 下顎骨骨折の分類・診断・治療を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 頭蓋、顔面の解剖を説明できる。 外傷の総論が説明できる。 頭部・顔面外傷の総論が説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p>	前田 剛



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/29 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系15 頭部顔面外傷各論	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】            歯科医学各論            各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患            2 軟組織の損傷            ウ 損傷に対する治療</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】            歯科医学各論            各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患            8 歯・歯槽骨・顎骨・顔面骨の損傷            ア 骨の亀裂・破折・脱臼            イ 骨折の様態            エ 下顎骨骨折            カ 上顎骨骨折            キ 頬骨・頬骨弓骨折            ク 鼻骨骨折            ケ 眼窩壁吹き抜け骨折            サ 損傷に対する治療</p> <p>【コアカリキュラム】            E 臨床歯学教育            E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患            E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患            E-2-4) - (2) 外傷            *①一般的な骨折の種類と特徴および治癒過程を説明できる。            *②歯の外傷と顎顔面骨折の原因と種類を列挙できる。            *③外傷時の検査法を列挙できる。            *⑥骨折の治療原則を説明できる。            ⑦軟組織損傷を分類し、それぞれの症状と処置法を説明できる。</p>	前田 剛
2018/02/05 (月) 1時限 09:00～10:30	頭蓋顔面頭頸部外 科系16 平常試験	<p>【授業の一般目標】            客観問題による試験。            準備学修時間：30分</p> <p>【行動目標 (SBOs)】            1. 授業の知識習得を確認できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            頭蓋・顔面・頭頸部外科系授業内容の復習。試験への準備。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            なし</p> <p>【学修方略 (LS)】            その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】            302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	牧山 康秀

## 臨床検査医学系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	通年	福本 雅彦 (歯科臨床検査医学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 全身疾患を有する患者に適切な歯科診療を行うために必要な臨床検査の知識を修得する。
担当教員	福本 雅彦、深津 晶、布施 恵、淵上 真奈、小峯 千明
教科書	教科書は使用しない。 基礎歯科医学で使用した教科書 配布プリントを参考とする。
参考図書	栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ 奈良信雄 医歯薬出版株式会社 臨床検査法提要 金井 泉 金原出版
評価方法 (EV)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席カード9時00分に配布</li> <li>2. 全員に配布後は欠席とする。</li> <li>3. 欠席者は翌週の授業までに欠席届を提出する事 (2階歯科臨床検査医学医局)。</li> <li>4. 毎授業前に小試験(基準値試験)を行う。</li> <li>5. 毎小試験(基準値試験)の合格ラインは80%、合格ラインに達しない場合はその週の土曜日に再試験(合格ライン80%)を実施する。再試験にて合格ラインに達しない場合は当日再度の試験を実施する。再試験を正当な理由なくして欠席した場合は最終評価点は上限60点とする。 また、2回目以後の再試験欠席は最終評価点の上限を11点ずつ減じる。 例) 再試験1回欠席 上限60点 2回欠席 上限49点 3回欠席 上限38点 4回目 上限 27点</li> <li>6. 最終成績判定 期末試験(40%) + 中間試験(40%) + 平常試験・履修態度(20%)</li> </ol> <p>* : 正当な理由がなく、授業を1/5以上欠席した場合は評価点上限60点とする。 履修態度の中には服装・髪型なども含む。</p>
学生への メッセージ オフィスアワー	<p>現代の我が国は超高齢社会であると共に、小児から成人までの多くの人々が様々なストレスにさらされるストレス社会でもある。このような社会的背景のもと我が国の国民における有病者数は年々増加傾向にある。それゆえ歯科診療を必要とする患者さんの中で何らかの全身疾患を有する者も当然多数存在する。このことを鑑みると医療を実施する歯科医療者側、医療を受ける患者側の双方が安全・安心・快適な歯科医療を実施できるような知識を身につけることは必要不可欠である。そのためには患者が現在どのような全身状況なのかを把握することは極めて有用である。臨床検査はそのための重要なツールである。本講義では患者の全身状況の把握のため臨床検査データを解析する能力を獲得することを目的とする。</p> <p>オフィスタイム：午前8時15分～午後6時位</p>

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/06 (木) 1時限 09:00～10:30	総論 1) 臨床検査とは 2) 臨床検査の種類 3) 臨床検査の基準値 4) 検査の安全性	<p><b>【授業の一般目標】</b> 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。</p> <p><b>【行動目標(SBOs)】</b>                      1. 臨床検査に用いられる検査材料の種類とその取り扱いを説明できる。                      2. 各検査項目の臨床的意義を理解し説明できる。                      3. 歯科診療における臨床検査の重要性を理解し説明できる。                      4. 検体検査・生体検査とは何かを説明できる。                      5. 基準値の範囲を説明できる。                      6. 検査の安全性を説明できる。                      7. 歯科医師国家試験において基準値を理解すべき項目を述べる事ができる。</p> <p><b>【準備学修項目と準備学修時間】</b>                      1) 基礎医学科目を理解する。                      準備学修時間：約45分</p> <p><b>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</b>                      Webclassにて基準値教材を視聴すること・パワーポイント・・パワーポイント・板書・プリント</p> <p><b>【学修方略(LS)】</b> 講義</p> <p><b>【場所(教室/実習室)】</b> 302教室</p> <p><b>【国家試験出題基準(主)】</b>                      必修の基本的事項                      11 検査の基本                      ア 意義、目標                      a 診断</p> <p><b>【国家試験出題基準(副)】</b>                      必修の基本的事項                      12 臨床判断の基本                      イ 基準値                      a 基準範囲の概念                      b 生理学的変動</p>	福本 雅彦 深津 晶 淵上 真奈 小峯 千明 布施 恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/06 (木) 1時限 09:00～10:30	総論 1) 臨床検査とは 2) 臨床検査の種類 3) 臨床検査の基準値 4) 検査の安全性	c 性差、年齢差 1 1 検査の基本 ア 意義、目標 b 治療経過の評価 c 医療情報の収集 イ 検査の安全 a 患者・検体の確認 b 実施 (必要性) の説明 c 検査の合併症 a 患者・検体の確認  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 *⑤各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。	福本 雅彦 深津 晶 澁上 真奈 小峯 千明 布施 恵
2017/04/13 (木) 1時限 09:00～10:30	1) 血液型 2) 臨床検査の種類 3) 尿検査  一般検査 尿検査 血圧測定法	【授業の一般目標】 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 臨床検査に用いられる検査材料の種類とその取り扱いを説明できる。 2. 各検査項目の臨床的意義を理解し説明できる。 3. 腎臓の形態、尿、尿検査の利点欠点を説明できる。 4. 尿一般検査、尿化学的検査、尿形態学的検査の項目と臨床的意義について説明できる。 5. 尿検査の異常から疑われる疾患について説明できる。 6. 血圧測定法を理解し説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 1) 基礎医学科目を理解する。 2) 解剖学的・組織学的な腎臓の特徴を説明できる。 3) 代謝についてを説明できる。 準備学修時間：約45分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること・パワーポイント・板書・プリント  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 検査の基本 ウ 検体検査の種類 a 一般臨床検査 (尿、穿刺液、関節液)  【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 1 2 臨床判断の基本 イ 基準値 a 基準範囲の概念 b 生理学的変動 c 性差、年齢差 歯科医学総論 総論IX 検査 4 生体機能検査 イ 心機能検査 3 検体検査 ア 検体の採取・保存 イ 一般臨床検査  【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 *⑤各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。	福本 雅彦 深津 晶 布施 恵
2017/04/20 (木) 1時限 09:00～10:30	血液 1) 血液の組成と役割 2) 採血法 3) 試料の取り扱い  血液疾患 (1) 貧血① 1) 貧血とは 2) 貧血の分類 3) 貧血の検査	【授業の一般目標】 血液の組成と役割を理解できる。 採血方法と検体管理方法を理解できる。 貧血について理解できる。  【行動目標 (SBOs)】 1. 血液成分について理解し説明できる 2. 採血方法を説明できる 3. 貧血の定義を理解し説明できる 4. 貧血の一般症状について理解し説明できる 5. 貧血の分類を理解し説明できる 6. 採血のリスクを理解し説明できる。 7. 採血時の検査に与える影響を述べる事ができる。  【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：1) 血球成分 (赤血球、白血球、血小板)、血清成分の働きを説明できる。 2) 静脈の位置を説明できる。 3) 赤血球の働きについて説明できる。 準備学習時間：30分	澁上 真奈

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/20 (木) 1時限 09:00～10:30	血液 1) 血液の組成と役割 2) 採血法 3) 試料の取り扱い  血液疾患 (1) 貧血① 1) 貧血とは 2) 貧血の分類 3) 貧血の検査	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること・講義・パワーポイント・プリント</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論IX 検査 3 検体検査 ウ 血液学検査</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論IX 検査 3 検体検査 ア 検体の採取・保存 ウ 血液学検査 総論VII 主要症候 1 全身の症候 オ 血液、造血器、免疫 必修の基本的事項 14 主要な疾患と障害の病因・病態 イ 歯・口腔・顎・顔面の疾患の概念 p 口腔に症状を現す血液疾患・出血性素因 9 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思 (欲) 不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害 ウ 全身の疾患による主な口腔症状 a 貧血による舌炎</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 *⑤各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (11) 血液、造血器、リンパ性器官 *③赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。</p>	潤上 真奈
2017/04/27 (木) 1時限 09:00～10:30	血液疾患 (2) 貧血② 4) 各種貧血について 5) 貧血患者の歯科治療における対応について	<p>【授業の一般目標】 貧血について理解できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 代表的な貧血とその特徴を理解し説明できる。 2. 貧血患者の歯科治療の対応について理解し説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：血液の働き、貧血の検査を説明できる。 準備学修時間：40分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること・講義・パワーポイント・プリント</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 キ 血液・造血器疾患</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論IX 検査 3 検体検査 ウ 血液学検査 エ 生化学検査</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (11) 血液、造血器、リンパ性器官 *③赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *⑤各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。</p>	潤上 真奈
2017/05/11 (木)	出血性素因①	【授業の一般目標】	小峯 千明

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
1時限 09:00～10:30	1) 出血性素因とは 2) 出血性素因の分類	<p>出血性素因について理解できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>止血機序を説明できる。</li> <li>血液凝固因子の種類および働きを説明できる。</li> <li>血液凝固の機序を説明できる。</li> <li>出血性素因の定義および原因を説明でき、原因別に分類することができる。</li> </ol> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>血液の働き、特に血小板および血液凝固因子の働きを説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>有（WEB Classを利用する）</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 キ 血液・造血管疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】</p> <p>歯科医学総論 総論Ⅸ 検査 3 検体検査 ウ 血液学検査 エ 生化学検査</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。</p>	小峯 千明
2017/05/18 (木) 1時限 09:00～10:30	血液疾患（2）出血性素因② 3) 出血性素因の検査 4) 出血に対する歯科診療時の対応	<p>【授業の一般目標】</p> <p>出血性素因について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>出血性素因を原因別に調べる検査項目および検査意義を説明できる</li> <li>代表的な出血性素因とその特徴を理解し説明できる</li> <li>出血性素因患者の歯科診療の対応について理解し説明できる</li> </ol> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>血液の働き特に血小板および血液凝固因子の働きを説明できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>有（WEB Classを利用する）</p> <p>【学修方略（LS）】</p> <p>講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】</p> <p>302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】</p> <p>必修の基本的事項 9 主要な症候 ウ 全身的疾患による主な口腔症状 b 出血性素因による歯肉出血・拔牙後出血</p> <p>【コアカリキュラム】</p> <p>C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害 *②出血の原因、種類および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 *①口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患（貧血、出血性素因、白血病）とスクリーニング検査法を列挙できる。</p>	小峯 千明
2017/05/25 (木) 1時限 09:00～10:30	糖尿病 糖尿病と歯科診療	<p>【授業の一般目標】</p> <p>糖尿病について理解できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>糖尿病の定義を説明できる。</li> <li>インスリンの働きを説明できる</li> <li>糖尿病の種類と特徴を説明できる。</li> <li>糖尿病の症状（全身、口腔）および合併症（慢性、急性）を説明できる</li> <li>糖尿病を調べる検査項目を理解し、その基準値を述べることができる。</li> <li>糖尿病患者へ歯科治療を行う際の注意点を説明できる</li> </ol> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>人体に必要なエネルギーについて説明できる。</li> <li>栄養の代謝特に糖代謝について説明できる</li> </ol>	深津 晶

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/25 (木) 1時限 09:00～10:30	糖尿病 糖尿病と歯科 診療	<p>準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること。パワーポイント・プリント使用。</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 ケ 内分泌、代謝、栄養</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 ケ 内分泌、代謝、栄養 必修の基本的事項 11 検査の基本 ウ 検体検査の種類 a 一般臨床検査（尿、穿刺液、関節液） c 生化学検査（糖質、糖、代謝関連物質、蛋白、含窒素成分、脂質代謝関連物質、電解質、酸塩基平衡、酵素、ホルモン） キ 結果の解釈 b 症候との関連 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 12 歯の喪失に伴う口腔・顎・顔面の変化 オ 全身への影響 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 16 口腔症状を呈する疾患 エ 内分泌障害、代謝障害</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 *②各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 *③口腔領域の疾患と全身疾患との関連を理解し説明できる。【歯科治療時の対応を含む。】</p>	深津 晶
2017/06/01 (木) 1時限 09:00～10:30	中間テスト	<p>【授業の一般目標】 これまでの講義内容の理解度を評価するため中間テストを実施する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容を理解する。 準備学修時間：約5時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p>	福本 雅彦 深津 晶 深津 真奈 小峯 千明 布施 恵
2017/06/08 (木) 1時限 09:00～10:30	造血器疾患・腎疾患	<p>【授業の一般目標】 造血器疾患を理解できる。 腎疾患と検査を関連付けられるようになる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 腎臓の機能、主な腎疾患・泌尿器疾患、腎不全、全身疾患や薬剤による腎障害を説明できる。 2. 造血器疾患を列挙できる。 3. 急性骨髄性白血病の臨床病態を述べることができる。 4. 急性リンパ性白血病の臨床病態を述べることができる。 5. 慢性骨髄性白血病の臨床病態を述べることができる。 6. 癌遺伝子・癌抑制遺伝子の役割を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1) 腎臓の解剖、生理機能および腎機能検査について説明できる。 2) 人体における白血球の働きを説明することができる。 3) 人体における白血球の基準値を列挙できる。 準備学修時間：約45分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること・パワーポイント・プリント・板書</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能</p>	福本 雅彦 深津 晶

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/08 (木) 1時限 09:00～10:30	造血器疾患・腎疾患	<p>2 器官系 オ 泌尿器系</p> <p>【国家試験出題基準(副)】            歯科医学総論            総論Ⅶ 主要症候            1 全身の症候            オ 血液、造血器、免疫            総論Ⅸ 検査            4 生体機能検査            ク 腎機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】            C 生命科学            C-2 人体の構造と機能            C-2-3) 身体を構成する組織、器官            C-2-3) - (9) 泌尿器系            *①腎臓と尿路(尿管、膀胱、尿道)の構造と機能を説明できる。            *②体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。【ネフロン働き(濾過、再吸収、分泌)を含む。】            *③水代謝と主な電解質の出納を説明できる。【酸-塩基平衡を含む。】            E 臨床歯学教育            E-1 診療の基本            E-1-1) 基本的診療技能            *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。            *②各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。            E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患            E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患            E-2-4) - (9) 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患            *①口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す血液疾患(貧血、出血性素因、白血病)とスクリーニング検査法を列挙できる。</p>	福本 雅彦 深津 晶
2017/06/15 (木) 1時限 09:00～10:30	肝臓の機能と検査	<p>【授業の一般目標】            肝臓の働き・検査を理解できる            肝疾患について説明できる</p> <p>【行動目標(SBOs)】            1. 肝臓の働きを説明できる            2. 肝機能検査について理解し、検査の意義を説明できる            3. 各種検査から疑われる肝臓の異常を説明できる            4. 急性・慢性肝炎、肝硬変について説明できる            5. 肝疾患が及ぼす歯科治療への影響について説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            1) 肝臓の解剖学的、組織学的特徴を説明できる。            2) 栄養の代謝を説明できる。            準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            Webclassにて基準値教材を視聴すること。パワーポイント・プリント使用。</p> <p>【学修方略(LS)】            講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】            302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】            歯科医学総論            総論Ⅲ 人体の正常構造と機能            2 器官系            イ 消化器系</p> <p>【コアカリキュラム】            C 生命科学            C-2 人体の構造と機能            C-2-3) 身体を構成する組織、器官            C-2-3) - (6) 消化器系            *①肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。            E 臨床歯学教育            E-4 歯科医療の展開            E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識            *②主要な医科疾患の症候を説明できる。</p>	深津 晶
2017/06/22 (木) 1時限 09:00～10:30	感染症(1) 感染症の概要と臨床検査	<p>【授業の一般目標】            炎症・感染症について理解できる</p> <p>【行動目標(SBOs)】            1. 炎症、感染症に関連する臨床検査項目を列挙できる            2. 測定結果から感染の有無を判定できる            3. 梅毒、結核感染症の病態および検査項目を述べることができる            4. カンジタ症の病態を述べることができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            1) これまでの臨床検査医学の講義内容(臨床検査総論、一般検査・尿検査、血液、貧血、出血性素因、白血球系疾患)について理解し、述べることができる。            2) 炎症・感染症の概要が述べられる。            3) 感染症の種類を列挙できる。            4) 口腔領域に症状を示す感染症を挙げるができる。            準備学修時間: 約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            Webclassにて基準値教材を視聴すること・パワーポイント・板書・プリント</p>	福本 雅彦

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/22 (木) 1時限 09:00～10:30	感染症 (1) 感染症の概要と 臨床検査	<p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 検査の基本 ウ 検体検査の種類 d 免疫血清学検査 (抗体、補体、炎症反応、感染症の血清学的診断)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 6 感染症、アレルギー、免疫疾患 エ 感染症 総論VIII 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 歯科医学各論 各論IV 顎・口腔領域の疾患 1 6 口腔症状を呈する疾患 イ 細菌感染症 必修の基本的事項 1 5 治療の基礎・基本手技 ホ 患者管理の基本 b 全身管理に留意すべき疾患・対象 (気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患 &lt;COPD&gt;、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症 &lt;GERD&gt;、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand 病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群 &lt;AIDS&gt;、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer 病、Parkinson 病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象&lt;菌交代症&gt;)</p> <p>歯科医学総論 総論VIII 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染 *②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。</p>	福本 雅彦
2017/06/29 (木) 1時限 09:00～10:30	感染症 (2) ウイルス性感染 症の概要と臨床検査	<p>【授業の一般目標】 ウイルス性感染症について理解できる</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. HTLV-1感染について説明できる。 2. HSV感染について説明できる。 3. VZV感染について説明できる。 4. 手足口病について説明できる。 5. ヘルパンギーナについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 1) 炎症・感染症の概要が述べられる。 2) 感染症の種類を列挙できる。 3) 口腔領域に症状を示す感染症を挙げることができる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 3 0 2 教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 1 1 検査の基本 ウ 検体検査の種類 d 免疫血清学検査 (抗体、補体、炎症反応、感染症の血清学的診断)</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 ウ 全身的疾患による主な口腔症状 d 後天性免疫不全症候群 &lt;AIDS&gt; によるカンジダ症・歯周病 歯科医学総論 総論VIII 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染 *②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微</p>	福本 雅彦



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/29 (木) 1時限 09:00～10:30	感染症(2) ウイルス性感染症の概要と臨床検査	生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。	福本 雅彦
2017/07/06 (木) 1時限 09:00～10:30	感染症(3) ウイルス性感染症について	<p>【授業の一般目標】 ウイルス感染症について理解できる</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. ウイルス性肝炎の種類を列挙できる 2. B・C型肝炎の病態を述べるができる 3. B・C型肝炎の臨床検査方法を説明することができる 4. B・C型肝炎の感染防止および消毒法を述べるができる 5. HIV感染症の病態を述べるができる 6. HIV感染症の臨床検査方法を説明することができる 7. HIV感染症の感染防止および消毒法を述べるができる 8. Epstein-Barrウイルス感染症の病態を述べるができる 9. Epstein-Barrウイルス感染症の臨床検査方法を説明することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 歯科領域に関連の深いウイルスを列挙できる。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 11 検査の基本 ウ 検体検査の種類 d 免疫血清学検査 (抗体、補体、炎症反応、感染症の血清学的診断)</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 歯科医学総論 総論Ⅷ 診察 6 全身疾患を有する者への対応 ア 留意すべき疾患 必修の基本的事項 15 治療の基礎・基本手技 ホ 患者管理の基本 b 全身管理に留意すべき疾患・対象 (気管支炎、気管支喘息、肺炎、慢性閉塞性肺疾患 &lt;COPD&gt;、心筋梗塞、狭心症、高血圧症、心不全、心内膜炎、脳出血、脳梗塞、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、急性・慢性肝炎、肝硬変、胃食道逆流症 &lt;GERD&gt;、腎炎、慢性・急性腎不全、貧血、急性白血病、出血性素因、血友病、von Willebrand 病、糖尿病、骨粗鬆症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、副腎機能亢進症、副腎機能低下症、膠原病、後天性免疫不全症候群 &lt;AIDS&gt;、認知症、統合失調症、うつ病、双極性障害、てんかん、Alzheimer 病、Parkinson 病、アルコール・薬物依存症、悪性腫瘍、周術期、妊婦、小児、高齢者、免疫不全、臓器移植患者、菌交代現象&lt;菌交代症&gt;</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-1) 感染 *②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。 *③清潔と不潔の区分および滅菌と消毒の意義、原理および代表的な方法を説明できる。 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-4) 口唇・口腔・顎顔面領域の疾患 E-2-4) - (9) 口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す疾患 *②口唇・口腔・顎顔面領域に症状を現す感染症の種類とその症状を列挙できる。 *⑩ヒト免疫不全ウイルス(HIV)感染症の検査法とその口腔症状と検査法を説明できる。</p>	福本 雅彦
2017/07/13 (木) 1時限 09:00～10:30	腫瘍マーカー・自己抗体・自己免疫疾患	<p>【授業の一般目標】 歯科医師国家試験出題基準に基づいた腫瘍マーカー、自己抗体およびそれに伴う自己免疫疾患について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 自己抗体の種類を述べるができる。 2. 自己抗体と疾患の関係を述べるができる。 3. 腫瘍マーカーの種類を述べるができる。 4. 腫瘍マーカーと疾患の関係を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：自己免疫疾患とは何か説明できる。 準備学修時間：40分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること・講義・パワーポイント・プリント</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p>	淵上 真奈

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/13 (木) 1時限 09:00～10:30	腫瘍マーカー・自己抗体・自己免疫疾患	<p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 1 1 検査の基本 ウ 検体検査の種類 c 生化学検査（糖質、糖、代謝関連物質、蛋白、含窒素成分、脂質代謝関連物質、電解質、酸塩基平衡、酵素、ホルモン）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 オ 血液、造血器、免疫 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 1 7 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 コ 免疫疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *⑩各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。 C 生命科学 C-3 感染と免疫 C-3-2) 免疫 *④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。</p>	淵上 真奈
2017/07/20 (木) 1時限 09:00～10:30	歯科医師国家試験に必要な臨床検査	<p>【授業の一般目標】 歯科医師国家試験に合格するために必要な臨床検査項目と疾患の関連を理解できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 貧血に関する検査を列挙できる。 2. 各種感染症に関する検査とその基準値を述べることができる。 3. 糖尿病に関する検査とその基準値を述べることができる。 4. 肝機能に関する検査とその基準値を述べることができる。 5. 輸血に関する検査を列挙できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 歯科医師国家試験において覚えておかなければならない（国家試験問題に基準値記載がされない）検査項目の基準値を述べるようにしておく。 準備学修時間：約30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること・パワーポイント・板書・プリント</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅸ 検査 3 検体検査 イ 一般臨床検査</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅸ 検査 3 検体検査 ア 検体の採取・保存 ウ 血液学検査 エ 生化学検査 オ 免疫学検査 キ 病理組織学検査、細胞診 4 生体機能検査 エ 肝・胆道機能検査 カ 内分泌・代謝機能検査 ク 腎機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-1 診療の基本 E-1-1) 基本的診療技能 *①診察、検査および診断に必要な事項を列挙できる。 *⑩各種臨床検査の基準値を知り、重要な異常値の意味を説明できる。</p>	福本 雅彦 布施 恵
2017/09/07 (木) 1時限 09:00～10:30	平常試験	<p>【授業の一般目標】 臨床検査医学とはどのような学問かを理解し説明できる。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 各種臨床検査項目を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 これまでの講義内容を理解する。 準備学修時間：約10時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Webclassにて基準値教材を視聴すること</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p>	福本 雅彦 深津 晶 淵上 真奈 小峯 千明 布施 恵

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/07 (木) 1時限 09:00~10:30	平常試験	【場所 (教室/実習室)】 302教室	福本 雅彦 深津 晶奈 上野 真明 小峯 千恵 布施 恵

# 内科系

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	通年	坂巻 達夫 (内科学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 歯科診療において全人的医療を遂行する上で必要な医学的知識を理解する。
担当教員	坂巻 達夫、大口 純人、井上 文央
教科書	テキストを配布する。
参考図書	新臨床内科学第8版 高久史磨 医学書院 歯科のための内科学 改訂第3版 井田和徳 南江堂 チャート式こんな患者が来院したら 和嶋浩一 デンタルダイヤモンド社 有病者歯科ポケットブック全身疾患VS 歯科治療 渋谷鑑 デンタルダイヤモンド社
評価方法 (EV)	平常試験 (多肢選択問題) によって評価点 (100%) とする。
学生への メッセージ オフィスアワー	すでに履修した生理学, 生化学, 病理学, 解剖学などと系統立てて学習すると理解しやすい。 全人的医療という言葉が表わすように、患者さんを取り巻く社会的、生理的、心理的、倫理的といった様々な要素を理解するためにも幅広い知識が要求されます。歯科医学を遂行する上で必ず役に立つ時が来ますので、集中して受講してください。 内科オフィスアワー 午前8 時から午後5 時ころまで。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/06 (木) 2時限 10:40~12:10	内科診断学1	<p>【授業の一般目標】 循環動態、意識障害、発熱、咳嗽、胸痛、血圧異常について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 2. 症候に関連する検査データを踏まえて鑑別診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 循環動態、意識障害、発熱、咳嗽、胸痛、血圧異常について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思 (欲) 不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 10 診察の基本 オ 全身の診察 a 全身の外観 (体型、栄養、姿勢、歩行、発声) b 意識状態、精神状態 c バイタルサイン (呼吸、脈拍、血圧、体温) 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 ア 一般的症候 イ 皮膚、外表 ウ 呼吸器、心臓、血管 エ 消化器 オ 血液、造血器、免疫 カ 口腔の診察・検査 ク 神経 (知覚障害と運動障害を含む)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (3) 循環器系 *①心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激 (興奮) 伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】 *②肺循環と体循環の2系統を説明できる。 *③動脈、毛細血管および静脈の構造と血管系の役割を説明できる。 *④血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明できる。 *⑤主な動脈と静脈を列挙できる。 *⑥リンパの循環路とリンパ節の構造と機能を説明できる。 C-2-3) - (5) 神経系</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/06 (木) 2時限 10:40～12:10	内科診断学1	<p>*②末梢神経系の機能分類(体性神経系と自律神経系)を説明できる。 *③交感神経系と副交感神経系の構造と機能を説明できる。 *④脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能(呼吸、循環、体温)の調節中枢の働きを含む。】 C-2-3)-(7) 呼吸器系 *①気道系(鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支)の構造と機能を説明できる。</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/04/13 (木) 2時限 10:40～12:10	内科診断学2	<p>【授業の一般目標】 悪心、嘔吐、腹痛、下痢、急性腹症について理解する。 出血傾向、貧血について理解する。 浮腫、血尿、タンパク尿について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 2. 症候に関連する検査を踏まえて鑑別診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 悪心、嘔吐、腹痛、下痢、急性腹症について説明できる。 出血傾向、貧血について説明できる。 浮腫、血尿、タンパク尿について説明できる。 準備学修時間:30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p> <p>【場所(教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準(主)】 必修の基本的事項 9 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思(欲)不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害</p> <p>【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 11 検査の基本 ウ 検体検査の種類 a 一般臨床検査(尿、穿刺液、関節液) b 血球検査、凝固・線溶、血液型・輸血関連検査、赤沈 c 生化学検査(糖質、糖、代謝関連物質、蛋白、含窒素成分、脂質代謝関連物質、電解質、酸塩基平衡、酵素、ホルモン) d 免疫血清学検査(抗体、補体、炎症反応、感染症の血清学的診断) 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 ア 一般的症候 エ 消化器 オ 血液、造血器、免疫</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3)-(6) 消化器系 *①消化管(咽頭、食道、胃、小腸、大腸)の基本構造と機能を説明できる。 【腸管平滑筋の特徴、消化液、消化管ホルモンの機能を含む。】 *②肝臓の構造と機能および胆汁の分泌を説明できる。 *③膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。 C-2-3)-(9) 泌尿器系 *①腎臓と尿路(尿管、膀胱、尿道)の構造と機能を説明できる。 *②体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。【ネフロン働き(濾過、再吸収、分泌)を含む。】 *③水代謝と主な電解質の出納を説明できる。【酸-塩基平衡を含む。】 C-2-3)-(11) 血液、造血器、リンパ性器官 *①リンパ性組織とリンパ性器官を説明できる。 *②造血器を説明できる。 *③赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。 *④止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/04/20 (木) 2時限 10:40～12:10	内科診断学3	<p>【授業の一般目標】 各部関節痛、腰痛について理解する。 運動麻痺、認知症について理解する。 睡眠障害、うつ状態について理解する。</p> <p>【行動目標(SBOs)】 1. 症候から考えられる疾患の診断過程を説明できる。 2. 症候に関連する検査を踏まえて鑑別診断ができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 各部関節痛、腰痛について説明できる。 運動麻痺、認知症について説明できる。 睡眠障害、うつ状態について説明できる。 準備学修時間:30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略(LS)】 講義</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/20 (木) 2時限 10:40～12:10	内科診断学3	<p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 9 主要な症候 ア 全身の症候 a 発熱、全身倦怠感、体重減少・増加、ショック、意識障害、失神、脱水、浮腫、けいれん、めまい、咳、喀痰、喘鳴、チアノーゼ、胸痛、呼吸困難、息切れ、動悸、頻脈、徐脈、不整脈、血圧上昇・低下、食思（欲）不振、悪心、嘔吐、下痢、貧血、睡眠障害、頭痛、頭重感、摂食・嚥下障害</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 キ 心理、精神機能 ク 神経（知覚障害と運動障害を含む）</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3 身体を構成する組織、器官 C-2-3)-(2) 運動器系 *①生体を構成する主な骨と筋を列挙できる。 *②骨の基本構造と結合様式を説明できる。</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/04/27 (木) 2時限 10:40～12:10	生体機能検査（胸部X線写真、心電図）	<p>【授業の一般目標】 胸部の解剖から胸部X線画像について理解する。 心臓の電気生理から心電図について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 胸部X線画像、心電図について重要な所見を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 胸部の解剖から胸部X線画像について説明できる。 心臓の電気生理から心電図について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系（骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系（脈管系）、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅸ 検査 4 生体機能検査 ア 呼吸機能検査 イ 心機能検査</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3 身体を構成する組織、器官 C-2-3)-(3) 循環器系 *①心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激（興奮）伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】 C-2-3)-(7) 呼吸器系 *①気道系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支）の構造と機能を説明できる。 *②肺の構造と機能を説明できる。【内呼吸、外呼吸および呼吸運動の機序とその調節系を含む。】</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/05/11 (木) 2時限 10:40～12:10	呼吸器疾患	<p>【授業の一般目標】 呼吸器系の解剖、生理機能について理解する。 呼吸器系の疾患について理解する。 睡眠時無呼吸症候群について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 急性呼吸器感染症、肺結核、慢性閉塞性肺疾患、肺腫瘍について説明できる。 2. 睡眠時無呼吸症候群について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 呼吸器系の解剖、生理機能について説明できる。 呼吸器系の疾患について説明できる。 睡眠時無呼吸症候群について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/11 (木) 2時限 10:40～12:10	呼吸器疾患	<p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 ウ 呼吸器系</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 ウ 呼吸器、心臓、血管 総論Ⅸ 検査 2 画像検査 シ CT 4 生体機能検査 ア 呼吸機能検査 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 ア 呼吸器疾患 各論Ⅴ 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 1 病態 ク 睡眠時無呼吸症候群</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (7) 呼吸器系 *①気道系（鼻腔、副鼻腔、喉頭、気管、気管支）の構造と機能を説明できる。 *②肺の構造と機能を説明できる。【内呼吸、外呼吸および呼吸運動の機序とその調節系を含む。】</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/05/18 (木) 2時限 10:40～12:10	循環器疾患	<p>【授業の一般目標】 循環器系の解剖、生理機能について理解する。 循環器系の疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 循環動態、高血圧症、虚血性心疾患、感染性心内膜炎関連疾患について説明できる。 2. 弁膜症、心筋症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 循環器系の解剖、生理機能について説明できる。 循環器系の疾患について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 エ 循環器系&lt;脈管系&gt;</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 ウ 呼吸器、心臓、血管 総論Ⅵ 病因、病態 4 循環障害 ア 全身の循環障害 ウ 閉塞性の循環障害 総論Ⅸ 検査 2 画像検査 タ 超音波検査 4 生体機能検査 イ 心機能検査 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 イ 心臓・脈管疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (3) 循環器系 *①心臓の構造と機能を説明できる。【心臓の刺激（興奮）伝導系、心筋の特徴、標準的心電図波形および心音を含む。】 *②肺循環と体循環の2系統を説明できる。 *③動脈、毛細血管および静脈の構造と血管系の役割を説明できる。 *④血液循環と血管運動、血圧の調節機構を説明できる。 *⑤主な動脈と静脈を列挙できる。</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/18 (木) 2時限 10:40～12:10	循環器疾患	<p>*⑥リンパの循環路とリンパ節の構造と機能を説明できる。 C-4 病因と病態 C-4-3) 循環障害</p> <p>*①虚血、充血およびうっ血の徴候、原因および転帰を説明できる。 *③血栓の形成機構と形態学的特徴および転帰を説明できる。 *④血栓の成因、種類および転帰を説明できる。 *⑤梗塞の種類、形態学的特徴および転帰を説明できる。</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/05/25 (木) 2時限 10:40～12:10	脂質異常・糖尿病	<p>【授業の一般目標】 糖尿病の病態について理解する。 高脂血症の病態について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 糖尿病とその合併症について説明できる。 2. 高脂血症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 糖尿病の病態について説明できる。 高脂血症の病態について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 ケ 内分泌、代謝、栄養</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 ケ 代謝性疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (6) 消化器系 *③膵臓の外分泌腺と内分泌腺の特徴を説明できる。</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/06/01 (木) 2時限 10:40～12:10	腎・泌尿器科疾患	<p>【授業の一般目標】 腎臓の解剖、生理機能について理解する。 腎臓疾患について理解する。 泌尿器疾患について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 腎臓の機能を説明できる。 2. 急性・慢性腎不全を説明できる。 3. 主な腎臓疾患を説明できる。 4. 主な泌尿器疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 腎臓の解剖、生理機能について説明できる。 急性・慢性腎不全について説明できる。 主な腎臓疾患を説明できる。 主な泌尿器疾患を説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅲ 人体の正常構造と機能 2 器官系 オ 泌尿器系</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 エ 泌尿器・生殖器疾患 各論Ⅵ 高齢者の歯科診療 13 管理に留意すべき全身疾患 エ 腎臓疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/01 (木) 2時限 10:40～12:10	腎・泌尿器科疾患	C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (9) 泌尿器系 *①腎臓と尿路(尿管、膀胱、尿道)の構造と機能を説明できる。 *②体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。【ネフロン働き(濾過、再吸収、分泌)を含む。】 *③水代謝と主な電解質の出納を説明できる。【酸-塩基平衡を含む。】	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/06/08 (木) 2時限 10:40～12:10	腎・泌尿器科疾患 血液疾患	【授業の一般目標】 腎臓の解剖、生理機能について理解する。 止血、凝固機能について理解する。 貧血、出血傾向について理解する。  【行動目標(SBOs)】 1.腎臓の機能を説明できる。 2.急性・慢性腎不全を説明できる。 3.主な腎臓疾患を説明できる。 4.全身疾患や薬剤による腎臓の変化を説明できる。 5.止血・凝固・造血機構について説明できる。 6.主な貧血について説明できる。 7.主な出血性疾患について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 腎臓の解剖、生理機能について説明できる。 止血、凝固機能について説明できる。 貧血、出血傾向について説明できる。 準備学修時間:30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候 オ 血液、造血器、免疫  【国家試験出題基準(副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系(骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系(脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系) 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患 サ 白血病  【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (9) 泌尿器系 *①腎臓と尿路(尿管、膀胱、尿道)の構造と機能を説明できる。 *②体液の量と組成および浸透圧の調節機構を説明できる。【ネフロン働き(濾過、再吸収、分泌)を含む。】 *③水代謝と主な電解質の出納を説明できる。【酸-塩基平衡を含む。】 C-2-3) - (11) 血液、造血器、リンパ性器官 *①リンパ性組織とリンパ性器官を説明できる。 *②造血器を説明できる。 *③赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。 *④止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/06/15 (木) 2時限 10:40～12:10	内分泌疾患	【授業の一般目標】 内分泌器官の生理機能とフィードバック機構について理解する。 内分泌系の疾患について理解する。  【行動目標(SBOs)】 1.内分泌器官を中枢と末梢のフィードバック機構を説明できる。 2.主な内分泌疾患について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 内分泌器官の生理機能とフィードバック機構について説明できる。 内分泌系の疾患について説明できる。 準備学修時間:30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略(LS)】 講義  【場所(教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準(主)】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身的症候	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/15 (木) 2時限 10:40～12:10	内分泌疾患	<p>ケ 内分泌、代謝、栄養</p> <p>【国家試験出題基準（副）】            歯科医学各論            各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患            16 口腔症状を呈する疾患            エ 内分泌障害、代謝障害            17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態            ク 内分泌疾患</p> <p>【コアカリキュラム】            C 生命科学            C-2 人体の構造と機能            C-2-3) 身体を構成する組織、器官            C-2-3) - (8) 内分泌系            *①各内分泌器官の構造と機能およびホルモンを説明できる。【ホルモンの特徴と機能、内分泌系と神経系との機能相関を含む。】</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/06/22 (木) 2時限 10:40～12:10	血液疾患	<p>【授業の一般目標】            止血、凝固機能について理解する。            貧血、出血傾向について理解する。            貧血、出血性疾患について理解する。            白血病、リンパ系腫瘍について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】            1. 止血・凝固・造血機構について説明できる。            2. 主な貧血について説明できる。            3. 主な出血性疾患について説明できる。            4. 主な白血病、リンパ系腫瘍について理解する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            止血、凝固機能について説明できる。            貧血、出血傾向について説明できる。            貧血、出血性疾患について理解する。            白血病、リンパ系腫瘍について理解する。            準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            なし</p> <p>【学修方略（LS）】            講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】            302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】            必修の基本的事項            9 主要な症候            ウ 全身的疾患による主な口腔症状            a 貧血による舌炎</p> <p>【国家試験出題基準（副）】            歯科医学各論            各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患            5 軟組織に発生する腫瘍および腫瘍類似疾患            サ 白血病            必修の基本的事項            9 主要な症候            ウ 全身的疾患による主な口腔症状            b 出血性素因による歯肉出血・拔牙後出血</p> <p>【コアカリキュラム】            C 生命科学            C-2 人体の構造と機能            C-2-3) 身体を構成する組織、器官            C-2-3) - (11) 血液、造血器、リンパ性器官            *②造血器を説明できる。            *③赤血球、白血球および血小板の形成過程と機能を説明できる。            *④止血と血液凝固の機序を説明できる。【線溶系を含む。】</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/06/29 (木) 2時限 10:40～12:10	感染症	<p>【授業の一般目標】            感染症について理解する。            院内感染対策について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】            1. 主な細菌感染について説明できる。            2. 主なウイルス感染症について説明できる。            3. 院内感染対策について説明できる。            4. HIV感染症について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            主なウイルス感染症について説明できる。            主な細菌感染症について説明できる。            院内感染対策について説明できる。            準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            なし</p> <p>【学修方略（LS）】            講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】            302教室</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/29 (木) 2時限 10:40～12:10	感染症	<p>【国家試験出題基準（主）】            歯科医学総論            総論Ⅱ 健康管理・増進と予防            1 1 感染症対策            イ 感染症対策</p> <p>【国家試験出題基準（副）】            歯科医学総論            総論Ⅱ 健康管理・増進と予防            1 1 感染症対策            ウ 院内感染対策            総論Ⅵ 病因、病態            6 感染症、アレルギー、免疫疾患            エ 感染症            歯科医学各論            各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患            1 6 口腔症状を呈する疾患            ア ウイルス感染症            イ 細菌感染症</p> <p>【コアカリキュラム】            C 生命科学            C-3 感染と免疫            C-3-1) 感染            *②細菌、真菌、ウイルスおよび寄生虫のヒトに対する感染機構とこれらの微生物がヒトに対して示す病原性を説明できる。</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/07/06 (木) 2時限 10:40～12:10	膠原病・アレルギー疾患	<p>【授業の一般目標】            アレルギー疾患の病態を理解する。            膠原病の病態について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】            1. 主は膠原病について説明できる。            2. 気管支喘息について説明できる。            3. アナフィラキシーショックについて説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            アレルギー疾患の病態を説明できる。            膠原病の病態について説明できる。            準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】            なし</p> <p>【学修方略（LS）】            講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】            302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】            歯科医学総論            総論Ⅵ 病因、病態            6 感染症、アレルギー、免疫疾患            カ 自己免疫疾患</p> <p>【国家試験出題基準（副）】            歯科医学総論            総論Ⅵ 病因、病態            6 感染症、アレルギー、免疫疾患            キ アレルギー反応（過敏症）            歯科医学各論            各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患            1 6 口腔症状を呈する疾患            ウ 免疫異常            c 自己免疫疾患            a アレルギー疾患            d 移植片対宿主病 &lt;GVHD&gt;</p> <p>【コアカリキュラム】            C 生命科学            C-3 感染と免疫            C-3-2) 免疫            *④自己と非自己の識別機構と免疫寛容を説明できる。            *⑤アレルギーの分類を説明できる。【発生機序を含む。】            *⑥免疫・アレルギー疾患の種類と発症機序を説明できる。</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/07/13 (木) 2時限 10:40～12:10	脳・神経・筋疾患	<p>【授業の一般目標】            脳神経の解剖について理解する。            運動・知覚の神経伝導路について理解する。            認知機能とその障害について理解する。            脳、神経、筋疾患について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】            1. 主な脳血管疾患について説明できる。            2. 主な運動ニューロン疾患について説明できる。            3. 主な筋肉疾患について説明できる。            4. 認知障害をきたす主な疾患について説明できる。            5. 主な脱髄疾患について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】            脳神経の解剖について説明できる。            運動・知覚の神経伝導路について説明できる。            認知機能とその障害について説明できる。            脳、神経、筋疾患について理解する。            準備学修時間：30分</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/13 (木) 2時限 10:40～12:10	脳・神経・筋疾患	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅶ 主要症候 1 全身の症候 ク 神経（知覚障害と運動障害を含む）</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論Ⅳ 顎・口腔領域の疾患 17 全身管理に留意すべき全身疾患・状態 オ 神経・運動器疾患 各論Ⅵ 高齢者の歯科診療 13 管理に留意すべき全身疾患 キ 要介護の原因疾患</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (5) 神経系 *①脳神経の種類、走行、線維構築および支配領域を説明できる。 *②末梢神経系の機能分類（体性神経系と自律神経系）を説明できる。 *④脳と脊髄の基本的構造と機能を説明できる。【主要な自律機能（呼吸、循環、体温）の調節中枢の働きを含む。】</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/07/20 (木) 2時限 10:40～12:10	中毒・環境要因疾患	<p>【授業の一般目標】 環境要因による人体の変化について理解する。 中毒による人体の変化について理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1. 熱中症、低体温症について説明できる。 2. さまざまな中毒による症状と対応を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 環境要因による人体の変化について説明できる。 中毒による人体の変化について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論Ⅵ 病因、病態 9 中毒、放射線障害 ア 中毒の発生要因・病態生理</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央
2017/09/07 (木) 2時限 10:40～12:10	平常試験 解説講義	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 平常試験 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略（LS）】 その他</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p>	坂巻 達夫 大口 純人 井上 文央

# 隣接医学系 1

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	通年	坂巻 達夫 (内科学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 歯科診療において全人的医療を遂行する上で必要な医学的知識を理解する。
担当教員	※小室 歳信、※太田 克也、※織田 健司、※平井 伸英、※和田 久美子
教科書	臨床のための法医学 第6版 小室歳信, 澤口彰子ほか 朝倉書店 事例・判例から学ぶ歯科の法律 第1版 第4刷 小室歳信 医歯薬出版 精神・神経科学は教科書は使用しないが、レジメのプリントを配布する。
参考図書	カプラン臨床精神医学テキスト 第2版監訳 井上 令一・四宮 滋 メディカル・サイエンス・インターナショナル DSM - IV - TR 精神疾患の分類と診断の手引 新訂版 訳：高橋 三郎／大野 裕／染矢 俊幸 医学書院 ICD - 10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン監訳 融 道男／中根 允文／小見山 実 医学書院 現代臨床精神医学 大熊輝雄 金原出版
評価方法 (EV)	平常試験 (多肢選択問題) によって評価点 (100%) とする。
学生への メッセージ オフィスアワー	全人的医療という言葉が表すように、患者さんを取り巻く生理的、社会的、心理的、倫理的といった様々な要素を理解するためにも幅広い知識が要求されます。歯科医学を遂行する上で必ず役に立つときがきますので、集中して受講してください。 すべて、外部講師の方々です。礼節のある授業態度で臨んでください。疑問がある場合は授業時間内に積極的に質問してください。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/05 (水) 4時限 14:50~16:20	1. 総論 1) 法医学とは 2) 検屍と解剖 3) 日本における異常死体の取り扱い方 2. 生と死 1) 出生と死の判定効果 2) 生と死の判定時期	<p>【授業の一般目標】 法医学の定義について説明できる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 「法律上問題となる」「医学的事項」「解決に寄与する」とは何を表しているかを説明できる。 2. 法医学の対象は、死体ばかりでないことを説明できる。 3. 検屍の対象となる異常死体とは何か、どのような場合に法医学解剖に付されるのかを説明できる。 4. 我国における死体の取り扱いについて説明できる。 5. ヒトはどの時点で生きる権利を認められるか、どの時点で死と判定されるのかを説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 法医学の定義について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 I 保健医療論 5 歯科法医学 ア 死体解剖と死因究明制度</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	小室 歳信
2017/04/12 (水) 4時限 14:50~16:20	3. 死体現象 1) 定義 2) 早期死体現象 3) 晩期死体現象 4) 特殊死体現象 5) 死後経過時間推定 4. 異常環境による障害と死 1) 高温による障害	<p>【授業の一般目標】 死体の時間的变化を理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 死体に現れてくる様々な変化・現象を説明できる。 2. 早期死体現象と晩期死体現象の発症機序と法医学的意義について説明できる。 3. ミイラ化や死蝸化現象について説明できる。 4. 死因や死体の環境などを考慮して死後経過時間を推定できることを説明できる。 5. 異常温度による障害・死亡の発生機序を説明できる。 6. 火傷死と焼死との死体所見の差異について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 死体の時間的变化を説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p>	小室 歳信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/04/12 (水) 4時限 14:50~16:20	3. 死体現象 1) 定義 2) 早期死体現象 3) 晩期死体現象 4) 特殊死体現象 5) 死後経過時間 推定 4. 異常環境による 障害と死 1) 高温による障 害	【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 I 保健医療論 5 歯科法医学 イ 死後変化  【コアカリキュラム】	小室 歳信
2017/04/19 (水) 4時限 14:50~16:20	4. 損傷 1) 定義と用語, 法医学的意義 2) 法医学的問題 点 3) 分類 4) 被虐待児症候 群 5) 損傷による死 因 6) 生活反応	【授業の一般目標】 創傷とその法医学的意義について理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 人体に生じた創傷を観察し、その検査の法医学的意義について説明できる。 2. 創傷の数、部位、性状および程度から、自・他殺、事故死の区別ができるこ とを説明できる。 3. 乳幼児や小児が繰り返し虐待を受け、それによって生じた外傷の特徴的性状 を説明できる 4. 損傷による死因について検討し説明できる。 5. 生体でなければ現れない所見 (生活反応) の意義、死後損傷と識別ができる ことを説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 創傷とその法医学的意義について説明できる。 準備学修時間: 30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論 I 保健医療論 5 歯科法医学 ア 死体解剖と死因究明制度  【コアカリキュラム】	小室 歳信
2017/04/26 (水) 4時限 14:50~16:20	6. 中毒 1) 中毒、毒物の 定義 2) 薬毒物の分類 3) 一酸化炭素・ 青酸 4) 農薬 5) 犯罪の成立要 件 6) 薬物依存症	【授業の一般目標】 農薬中毒・一酸化炭素中毒について理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 薬毒物の定義および薬理学的分類について説明できる。 2. 一酸化炭素、青酸および農薬などの性質、中毒作用機序および死体所見など を説明できる。 3. 「行為者の責任能力」について正当防衛、緊急避難、心神耗弱、心神喪失と 関連づけて説明できる。 4. 耽溺性のある麻薬類、覚醒剤等の代謝と排泄を説明できる。 5. アルコール依存症の定義と症状、ならびに代謝と排泄について説明できる。 6. 薬物依存症者の犯法行為と法律の関係について説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 農薬中毒・一酸化炭素中毒について説明できる。 準備学修時間: 30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略 (LS)】 講義  【場所 (教室/実習室)】 302教室  【国家試験出題基準 (主)】  【コアカリキュラム】	小室 歳信
2017/05/10 (水) 4時限 14:50~16:20	7. 窒息 1) 窒息死の定義 と分類 2) 窒息死の経過 3) 窒息死の特徴	【授業の一般目標】 窒息死について理解する。  【行動目標 (SBOs)】 1. 窒息の種々のタイプ (縊死、絞死、扼死など)、作用機序および窒息死体の 剖検所見を説明できる。 2. 窒息死体の特徴を知り、自・他殺あるいは事故死の区別を説明できる  【準備学修項目と準備学修時間】 窒息死について説明できる。 準備学修時間: 30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略 (LS)】 講義	小室 歳信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/10 (水) 4時限 14:50～16:20	7. 窒息 1) 窒息死の定義と分類 2) 窒息死の経過 3) 窒息死の特徴	【場所（教室/実習室）】 302教室  【国家試験出題基準（主）】  【コアカリキュラム】	小室 歳信
2017/05/17 (水) 4時限 14:50～16:20	8. 個人識別 1) 必要性・重要性 2) 生体・死体の個人識別 3) 災害事故死の身元確認 9. 歯科法医学 1) 法医学的意義 2) 歯から性別・年齢推定 3) 歯痕	【授業の一般目標】 個人識別について理解する。  【行動目標（SBOs）】 1. 個人識別の定義について説明できる。 2. 白骨死体の頭蓋骨の形態観察から性別判定法と年齢推定法について説明できる。 3. 大量災害死事故における身元不明死体の個人識別の効果的な手順について説明できる。 4. 歯・歯科所見の証拠物件としての価値を知り、それらの所見が身元確認に有効なのかを説明できる。 5. 歯の形態（大きさ、形）からの性別判定法を説明できる。 6. 歯の発生的変化、生理学的変化、病理学的変化、物理化学的变化からの年齢推定法を説明できる。 7. 歯に関する損傷のうち、歯痕からの個人識別について説明できる。 8. 歯科所見から職業、出身地、教養や生活程度などを推定できる場合があることを説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 個人識別について説明できる。 準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 302教室  【国家試験出題基準（主）】 歯科医学総論 総論 I 保健医療論 5 歯科法医学 ウ 個人識別、身元確認  【コアカリキュラム】 B 社会と歯学 B-2 健康と社会、環境 B-2-3) 歯科による個人識別 ①個人識別について説明できる。 ②歯科による個人識別について説明できる。	小室 歳信
2017/05/24 (水) 4時限 14:50～16:20	10. 医療行為 1) 医療行為の定義 2) 医行為と歯科医行為	【授業の一般目標】 医療行為について理解する。  【行動目標（SBOs）】 1. 業としての医療行為とはなにかを説明できる。 2. 正当な医療行為の条件（治療、医学的・社会的正当性、承諾）について説明できる。 3. 生体腎移植、正常分娩および美容整形手術などは医療行為といえるかについて説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 医療行為について説明できる。 準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし  【学修方略（LS）】 講義  【場所（教室/実習室）】 302教室  【国家試験出題基準（主）】  【コアカリキュラム】	小室 歳信
2017/05/31 (水) 4時限 14:50～16:20	11. 医療事故と法医学 1) ヒヤリ・ハット 2) リスクマネジメント	【授業の一般目標】 医療事故について理解する。  【行動目標（SBOs）】 1. 遺体は変死体と見なされ司法解剖に付されることを説明できる。 2. 事故には至らないヒヤリ・ハット事例を収集・分析し、再発防止策を説明できる。 3. 医療事故からリスクマネジメント構築を説明できる。  【準備学修項目と準備学修時間】 医療事故について説明できる。 準備学修時間：30分  【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし	小室 歳信

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/05/31 (水) 4時限 14:50~16:20	11. 医療事故と法医学 1) ヒヤリ・ハット 2) リスクマネジメント	<p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 4 歯科医療の質と安全の確保 イ 医療事故の防止 f ヒヤリハット、アクシデント、インシデント、医療事故報告書、インシデントレポート</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	小室 歳信
2017/06/07 (水) 4時限 14:50~16:20	精神・神経科学1 総論	<p>【授業の一般目標】 外因性、内因性、心因性精神障害について理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 医師・患者関係の心理学、疾病や治療に対する心理的反応を説明できる。 2. 人格による心理的反応の違いについて説明できる。 3. 外因性、内因性、心因性精神障害の分類について説明できる。 4. 自殺の原因、手段、対応について説明できる。 5. ストレスの成因、背景、対処について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 外因性、内因性、心因性精神障害について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	太田 克也
2017/06/14 (水) 4時限 14:50~16:20	精神・神経科学2 心身症と緩和医療	<p>【授業の一般目標】 心身症について理解する。 緩和医療について理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 精神疾患の症状、治療法、治療薬について説明できる。 2. 身体科入院中の患者に合併しやすい精神疾患を説明できる。 3. 緩和医療について説明できる。 4. 心身症の症状、精神・心理的な要因の関与、治療について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 心身症について説明できる。 緩和医療について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	平井 伸英
2017/06/21 (水) 4時限 14:50~16:20	精神・神経科学3 外因性精神障害と睡眠障害	<p>【授業の一般目標】 睡眠障害について理解する。</p> <p>【行動目標 (S B O s)】 1. 外因性精神障害、睡眠障害の症状、対応、治療について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 睡眠障害について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (L S)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	織田 健司



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/06/28 (水) 4時限 14:50～16:20	精神・神経科学4 内因性精神障害 (統合失調症) (気分障害)	<p>【授業の一般目標】 内因性精神障害について理解する。 感情障害について理解する うつ症状を呈する疾患について理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 内因性精神障害 (統合失調症) およびてんかんの症状、対応、治療について説明できる。 2. 感情障害 (躁うつ病) の症状、対応、治療について説明できる。 3. うつ症状を呈する様々な疾患について、その病態症状、対応、治療について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 内因性精神障害について説明できる。 感情障害について説明できる。 うつ症状を呈する疾患について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	太田 克也
2017/07/05 (水) 4時限 14:50～16:20	精神・神経科学5 小児および高齢者の精神障害	<p>【授業の一般目標】 小児・高齢者の精神的特性、精神障害について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 小児・高齢者に特有の精神的特性、精神障害の症状、対応、治療について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 小児・高齢者の精神的特性、精神障害について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	平井 伸英
2017/07/12 (水) 4時限 14:50～16:20	精神・神経科学6 てんかん	<p>【授業の一般目標】 てんかんについて理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. てんかん、心因性精神障害の症状、対応、治療について説明できる。 2. 人格障害の特徴、対応、治療について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 てんかんについて説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	織田 健司
2017/07/19 (水) 4時限 14:50～16:20	精神・神経科学7 司法精神医学	<p>【授業の一般目標】 司法精神医学について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 精神保健福祉法による入院形態について説明できる。 2. 刑事精神鑑定について説明できる。 3. 民事精神鑑定について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 精神保健福祉法による入院形態について説明できる。 刑事・民事精神鑑定について説明できる。 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p>	和田 久美子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/07/19 (水) 4時限 14:50～16:20	精神・神経科学7 司法精神医学	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 7 精神保健福祉 ア 現状、動向</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学総論 総論Ⅱ 健康管理・増進と予防 7 精神保健福祉 ウ 精神的健康の破綻と対応 エ 精神的健康と社会整備</p> <p>【コアカリキュラム】</p>	和田 久美子
2017/09/06 (水) 4時限 14:50～16:20	平常試験 解説講義	<p>【授業の一般目標】 その他</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 平常試験 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 なし</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p>	小室 歳信 太田 克也 織田 健司 平井 伸英 和田 久美子

隣接医学系 2

年次	学期	学修ユニット責任者
4年次	通年	小見山 道 (顎口腔機能治療学)

学修ユニット 学修目標 (GIO)	単位数：2単位 歯科診療において全人的医療を遂行する上で必要な医学・歯学的知識を理解する。
担当教員	※崎元 暢、小見山 道、井下田 繁子、北川 剛至、玉木 大之、村上 洋、牧村 英樹、和田 守康、飯田 崇、鈴木 浩司
教科書	よくわかる口腔インプラント学 第3版 赤川安正 松浦正朗 矢谷博文 渡邊文彦 医歯薬出版
参考図書	歯学生の口腔インプラント学 高森 等 佐藤 淳一 医歯薬出版 口腔インプラント治療指針 2016 公益社団法人 日本口腔インプラント学会 医歯薬出版 歯周病患者におけるインプラント治療の指針 2008 特定非営利活動法人 日本歯周病学会 医歯薬出版
評価方法 (EV)	平常試験 (多肢選択問題) によって評価点 (100%) とする。
学生への メッセージ オフィスアワー	全人的医療という言葉が表すように、患者さんを取り巻く生理的、社会的、心理的、倫理的といった様々な要素を理解するためにも幅広い知識が要求されます。歯科医学を遂行する上で必ず役に立つときがきますので、集中して受講してください。

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/21 (木) 4時限 14:50~16:20	ブラキシズム	<p>【授業の一般目標】 ブラキシズムへの適切な歯科的対応を行うために、ブラキシズムの定義と病因について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. ブラキシズムの定義について説明できる。 2. ブラキシズムの病因について説明できる。 3. ブラキシズムの顎口腔領域への影響について説明できる。 4. ブラキシズムへの歯科的対応について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：参考図書の授業範囲を熟読する。 準備学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 1 病態 キ ブラキシズム</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-2 口唇・口腔・頭蓋・顎顔面領域の常態と疾患 E-2-1) 頭頸部の基本構造と機能 *⑥下顎の随意運動の基本を説明できる。</p>	飯田 崇 小見山 道
2017/09/28 (木) 4時限 14:50~16:20	眼科学1 (眼科の基礎と前眼部疾患)	<p>【授業の一般目標】 目の解剖と生理機能、眼科検査を理解する。 角膜・結膜・外眼部疾患・白内障について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 視覚器の構成を述べることができる。 2. 基本的な眼内の解剖を述べることができる 3. 基本的な眼科検査を説明できる。 4. 代表的な角膜疾患・結膜疾患を説明できる。 5. 眼瞼・眼窩の疾患について理解する。 6. 白内障の分類と白内障手術の術式を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 目の解剖と生理機能を説明できる。 角膜・結膜疾患について説明できる。 眼瞼・眼窩の疾患について説明できる。 水晶体と白内障について説明できる。 準備学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有・事前に資料配布を行い反転授業を検討する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p>	崎元 暢

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/09/28 (木) 4時限 14:50～16:20	眼科学1 (眼科の基礎と前眼部疾患)	<p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (4) 感覚器系 *③視覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。</p>	崎元 暢
2017/10/05 (木) 4時限 14:50～16:20	眼科学2 (後眼部疾患)	<p>【授業の一般目標】 緑内障について理解する。 ぶどう膜炎について理解する。 全身疾患による眼障害を理解する。 網膜硝子体疾患について理解する。 準備学習時間：30分</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 緑内障の分類と治療法を説明できる。 2. 散瞳が禁忌である緑内障について説明できる。 3. 三大ぶどう膜炎について述べるができる。 4. 全身疾患による代表的な眼障害を説明できる。 5. 代表的な網膜硝子体疾患と治療法を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 緑内障について説明できる。 ぶどう膜炎について説明できる。 全身疾患による眼障害を説明できる。 網膜硝子体疾患について説明できる。</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 有・事前の資料配布により反転授業を検討する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ア 全身の構造・機能 e 器官系 (骨格系、筋系、消化器系、呼吸器系、循環器系 (脈管系)、泌尿器系、生殖器系、神経系、感覚器系、内分泌系)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-2 人体の構造と機能 C-2-3) 身体を構成する組織、器官 C-2-3) - (4) 感覚器系 *③視覚器、聴覚・平衡感覚器の構造と機能を説明できる。</p>	崎元 暢
2017/10/12 (木) 4時限 14:50～16:20	睡眠時無呼吸症候群 (1)	<p>【授業の一般目標】 国民の健康に対する要望に応えるために、また歯科診療の展開の一助とするために、睡眠健康科学の知識、態度を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 睡眠の生理について説明できる 2. 基礎的な睡眠医学について説明できる 3. 睡眠時無呼吸症候群の特徴について説明できる。 4. 睡眠時無呼吸症候群の合併症について説明できる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：睡眠時無呼吸症について 準備学習時間：約1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学習媒体：授業配布プリント 参考図書：睡眠呼吸障害 診断・治療ハンドブック</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 1 病態 ク 睡眠時無呼吸症候群</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育</p>	鈴木 浩司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/10/12 (木) 4時限 14:50～16:20	睡眠時無呼吸症候群 (1)	E-4 歯科医療の展開 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。	鈴木 浩司
2017/10/19 (木) 4時限 14:50～16:20	睡眠時無呼吸症候群 (2)	<p>【授業の一般目標】 国民の健康に対する要望に応えるために、また歯科診療の展開の一助とするために、睡眠健康科学の知識、態度を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 睡眠時無呼吸症候群に対する治療について説明できる 2. 睡眠時無呼吸症候群への歯科的対応を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：睡眠時無呼吸症 準備学習時間：約1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学習媒体：授業配布プリント 参考図書：睡眠呼吸障害 診断・治療ハンドブック</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 1 病態 ク 睡眠時無呼吸症候群</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 9 特殊な装置による治療 オ 下顎前方保持装置による治療</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-4 歯科医療の展開 E-4-6) 歯科医師に必要な医学的知識 *②主要な医科疾患の症候を説明できる。</p>	鈴木 浩司
2017/10/26 (木) 4時限 14:50～16:20	スポーツ歯学概論	<p>【授業の一般目標】 国民の健康に対する要望に応えるために、また歯科診療の展開の一助とするために、最新のスポーツ歯科医学や睡眠健康科学の知識、態度、技能を習得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. スポーツと顎口腔機能の関わりについて説明できる 2. スポーツにおけるマウスガードの役割を説明できる。 3. スポーツにおける歯科的外傷と対応を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：スポーツ歯学とカスタムメイドマウスガード 準備学習時間：約1時間</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 アクティブラーニング：無し 学習媒体：授業配布プリント 参考図書：要説スポーツ歯学</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論I 歯科疾患の予防・管理 5 その他の疾患の予防・管理 ク スポーツによる歯・口腔の外傷予防</p> <p>【コアカリキュラム】 F 臨床実習 F-2 診察の基本 F-2-3) 口唇・口腔内状態の診察 ①口唇・口腔内の状態を診察できる。</p>	鈴木 浩司
2017/11/02 (木) 4時限 14:50～16:20	再生歯科 1	<p>【授業の一般目標】 再生治療学について学習項目を理解する</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 再生歯科医療について述べることができる</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 再生治療学について学習項目を理解する 準備学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 PC</p>	和田 守康

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/02 (木) 4時限 14:50～16:20	再生歯科 1	<p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論VI 病因、病態 3 修復と再生 エ 再生</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 必修の基本的事項 6 人体の正常構造・機能 ウ 歯・歯周組織の構造・組成・機能 d 歯周組織の構造・組成 (根尖歯周組織、辺縁歯周組織)</p> <p>【コアカリキュラム】 C 生命科学 C-1 生命の分子的基盤 C-1-3) 細胞の構造と機能 *①細胞膜、核および細胞内小器官の構造と機能を説明できる。 *②細胞の分泌と吸収機構を説明できる。 *③細胞周期と細胞分裂を説明できる。 C-1-4) 細胞のコミュニケーション *①細胞の接着装置、細胞間と細胞・マトリックス間の接着分子を説明できる。 *②受容体を介するホルモン、成長因子、サイトカイン等による細胞間、細胞内の情報伝達機構を概説できる。 *③主な細胞外マトリックス分子の構造と機能を説明できる。 C-4 病因と病態 C-4-2) 修復と再生 *①修復と再生について説明できる。</p>	和田 守康
2017/11/09 (木) 4時限 14:50～16:20	再生歯科 2	<p>【授業の一般目標】 再生歯科治療の種類、現状について理解する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 再生歯科治療の種類について述べる事が出来る 2. 再生歯科治療の現状について述べる事が出来る 3. 外科的歯内療法の種類、術式について述べる事が出来る</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 コアカリに記載されている内容を理解する 準備学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 302教室 PC</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学総論 総論X 治療 2 治療の基礎 キ 再生療法</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-3) 歯と歯周組織の疾患の診断と治療 E-3-3) - (2) 歯髄・根尖歯周組織疾患の診断と治療 *①歯髄・根尖歯周組織疾患の症状、診断および治療法を説明できる。【検査法を含む。疾患の細胞レベル、分子生物学的レベルでの説明を含む】 *⑤歯髄・根尖歯周組織疾患の治療後の治癒機転と予後を説明できる。 *⑥歯内外科手術の種類と適応症を説明できる。 *⑧歯根吸収の原因、症状、診断および処置を説明できる。 ⑨歯髄・根尖歯周組織疾患の簡単な症例を処置できる。 C 生命科学 C-4 病因と病態 C-4-2) 修復と再生 *①修復と再生について説明できる。 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-2) 歯と歯周組織の疾患の特徴と病因 *③歯髄・根尖歯周組織疾患の病因と病態を説明できる。</p>	牧村 英樹
2017/11/16 (木) 4時限 14:50～16:20	平常試験 1	<p>【授業の一般目標】 その他</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 平常試験 準備学修時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 その他</p> <p>【場所 (教室/実習室)】</p>	坂巻 達夫 小見山 道 崎元 暢 牧村 英樹 和田 守康 飯田 崇 鈴木 浩司

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/11/16 (木) 4時限 14:50～16:20	平常試験 1	302教室	坂巻 達夫 小見山 道 崎元 暢 牧村 英樹 和田 守康 飯田 崇 鈴木 浩司
2017/11/30 (木) 4時限 14:50～16:20	口腔インプラント学 1	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔インプラントの歴史、材料の変遷、生体反応について述べることができる。 2. 口腔インプラント治療の特徴および基本構造について説明できる。 3. インプラント周囲組織と歯周組織の構造の違いを説明できる。 4. インプラントの生理学的特徴を説明できる。 5. インプラントに対する生体反応を説明できる。 6. インプラントの成功基準について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：参考図書の授業範囲を熟読する。 準備学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 ア オッセオインテグレーションの獲得</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) デンタルインプラント *①デンタルインプラントの種類、特徴、目的および意義を説明できる。 *②デンタルインプラントの基本構造を説明できる。 ③デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。</p>	村上 洋 井下田 繁子
2017/12/07 (木) 4時限 14:50～16:20	口腔インプラント学 2	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. インプラント治療の流れを説明できる。 2. インプラント治療における医療面接、インフォームドコンセントを理解できる。 3. インプラント治療のリスクファクターについて説明できる。 4. インプラント治療における全身状態の評価の目的と方法を説明できる。 5. インプラント治療で問題となる全身疾患を説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：参考図書の授業範囲を熟読する。 準備学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 ウ インプラントの埋入の治療計画</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 エ インフォームドコンセント シ 患者指導</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) デンタルインプラント ③デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。 ④デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。</p>	井下田 繁子

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2017/12/07 (木) 4時限 14:50~16:20	口腔インプラント学2		井下田 繁子
2017/12/14 (木) 4時限 14:50~16:20	口腔インプラント学3	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. 口腔インプラント治療に必要な局所的リスクファクター、診察および検査について説明できる。 2. 口腔インプラント治療における診断と治療計画の立案について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：参考図書 of 授業範囲を熟読する。 準備学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 ウ インプラントの埋入の治療計画</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) デンタルインプラント ③デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。</p>	井下田 繁子
2017/12/21 (木) 4時限 14:50~16:20	口腔インプラント学4	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. インプラント治療に必要な局所解剖を説明する。 2. インプラント埋入手術について説明する。 3. 滅菌と消毒について説明する。 4. 全身管理について説明する。 5. インプラント関連術式の種類とその特徴を説明する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：参考図書 of 授業範囲を熟読する。 準備学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 オ 外科処置</p> <p>【国家試験出題基準 (副)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 ウ インプラントの埋入の治療計画</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) デンタルインプラント ③デンタルインプラントに必要な診察と検査を説明できる。</p>	玉木 大之
2018/01/11 (木) 4時限 14:50~16:20	口腔インプラント学5	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1. インプラント埋入手術に関連する合併症を説明する。 2. インプラント上部構造の種類を説明できる。 3. インプラント補綴の術式を説明できる。</p>	北川 剛至 玉木 大之



日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/11 (木) 4時限 14:50～16:20	口腔インプラント学5	<p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：参考図書の授業範囲を熟読する。 準備学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 キ 補綴装置の印象採得</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 サ 合併症 カ プロビジョナルレストレーション ク 顎間関係の記録 イ 補綴装置の設計</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) デンタルインプラント ④デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。</p>	北川 剛至 玉木 大之
2018/01/18 (木) 4時限 14:50～16:20	口腔インプラント学6	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.インプラントの補綴術式を説明する。 2.インプラント上部構造の種類・固定方法を説明する。 3.インプラント補綴処置に関する合併症を説明する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：参考図書の授業範囲を熟読する。 準備学習時間：60分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 無</p> <p>【学修方略（LS）】 講義</p> <p>【場所（教室/実習室）】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準（主）】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 コ 補綴装置の装着</p> <p>【国家試験出題基準（副）】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 ケ 補綴装置の製作 コ 補綴装置の装着 サ 合併症</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) デンタルインプラント *②デンタルインプラントの基本構造を説明できる。 ④デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。</p>	北川 剛至
2018/01/25 (木) 4時限 14:50～16:20	口腔インプラント学 平常試験2	<p>【授業の一般目標】 欠損補綴の回復法を適切に患者に提供するために、口腔インプラント治療に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 1.メインテナンスの方法及びインプラント周囲組織の管理について説明できる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習項目：参考図書の授業範囲を熟読する。 準備学習時間：30分</p> <p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p>	加藤 仁夫 村上 洋 井下田 繁子 北川 剛至 玉木 大之

日付	授業項目	授業内容等	担当教員
2018/01/25 (木) 4時限 14:50～16:20	口腔インプラント学 平常試験 2	<p>無し</p> <p>【学修方略 (LS)】 講義</p> <p>【場所 (教室/実習室)】 302教室</p> <p>【国家試験出題基準 (主)】 歯科医学各論 各論V 歯質・歯・顎顔面欠損による障害とその他の口腔・顎・顔面の機能障害 8 インプラント義歯による治療 シ 患者指導</p> <p>【コアカリキュラム】 E 臨床歯学教育 E-3 歯と歯周組織の常態と疾患 E-3-4) 歯質欠損と歯の欠損の診断と治療 E-3-4) - (3) デンタルインプラント ④デンタルインプラントの適応症と合併症を説明できる。</p>	加藤 仁夫 村上 洋 井下田 繁子 北川 剛至 玉木 大之